

1. 地区の概況

図1 地区の位置

*地形図は国土地理院 基盤地図情報(数値標高モデル)5mメッシュにより作成



表1 人口、世帯数、年齢別人口等の動向

	平成20	平成25	平成30	平成20 ~25年	平成25 ~30年	平成25 年比率	平成30 年比率	平成30年 区平均	平成30年 市平均
人口 (人)	13,458	13,629	13,393	▲ 171	▲ 236	100.0	100.0	100.0	100.0
0~14歳人口 (人)	2,310	2,121	1,817	▲ 189	▲ 304	15.6	13.6	11.6	12.4
(内0~5歳) (人)	793	645	492	▲ 148	▲ 153	4.7	3.7	4.1	4.7
15~64歳人口 (人)	9,303	8,947	8,302	▲ 356	▲ 645	65.6	62.0	59.5	63.4
(内20~24歳) (人)	756	730	694	▲ 26	▲ 36	5.4	5.2	5.3	5.3
(内25~39歳) (人)	2,520	1,959	1,557	▲ 561	▲ 402	14.4	11.6	15.1	17.8
65歳以上人口 (人)	1,852	2,561	3,274	709	713	18.8	24.4	28.9	24.2
(内65~74歳) (人)	1,044	1,468	1,977	424	509	10.8	14.8	14.8	12.1
(内75歳以上) (人)	808	1,093	1,297	285	204	8.0	9.7	14.1	12.1
世帯数 (世帯)	4,776	5,068	5,194	292	126				
平均世帯規模 (人/世帯)	2.82	2.69	2.58					2.29	2.10

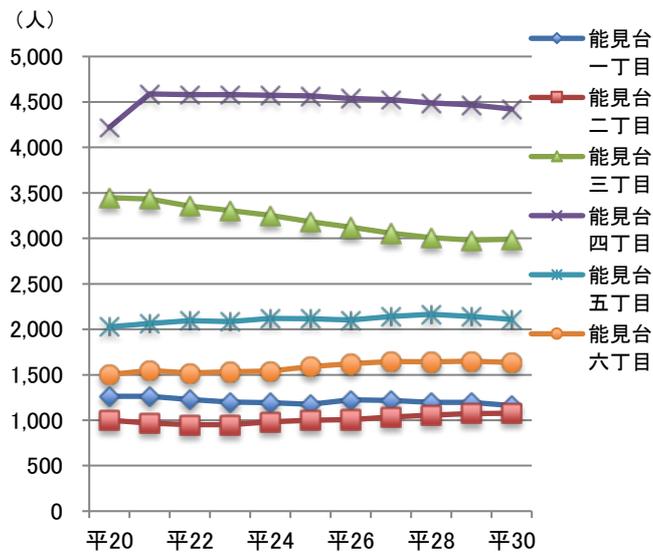
*「町別世帯と人口」、「町別年齢別男女別人口」による。各年9月末現在

*人口等の統計データは町丁目を単位に集計されたデータを活用しています。

*町丁目の境界線が複数の区域にわたる場合は、町丁目の区域を単位としていずれかの区域に含まれるものとして集計しました。

2. 町丁別人口世帯の動向 *「町丁別世帯と男女別人口」による。各年9月末現在

図2 町丁別人口の動向



能見台地区には、平成30年9月現在約13,390人が暮らしています。世帯数は約5,190世帯、平均世帯規模は2.58人/世帯です。(表1参照)

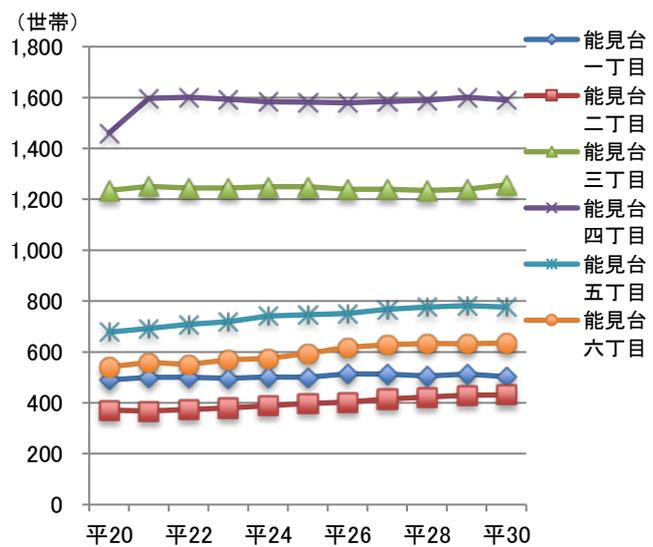
地区全体の人口は、平成25～30年の期間で見ると増加から減少になりましたが、世帯数は緩やかな増加が続いています。

世帯規模は縮小する傾向が続いていますが、平成30年の平均世帯規模は市の平均水準(2.10人/世帯)、金沢区の平均(2.29人/世帯)を大きく上回っています。(表1参照)

平成30年時点の65歳以上の人口比率(高齢化率)は、24.4%で区の平均(28.9%)を下回っています。高齢化率は5年間で約5.6%上昇しました。

0～14歳の(年少人口)、15～64歳(生産年齢人口)は、人口、比率とも減少する傾向があります。(表1参照)

図3 町丁別世帯数の動向



能見台地区には6町丁が含まれています。

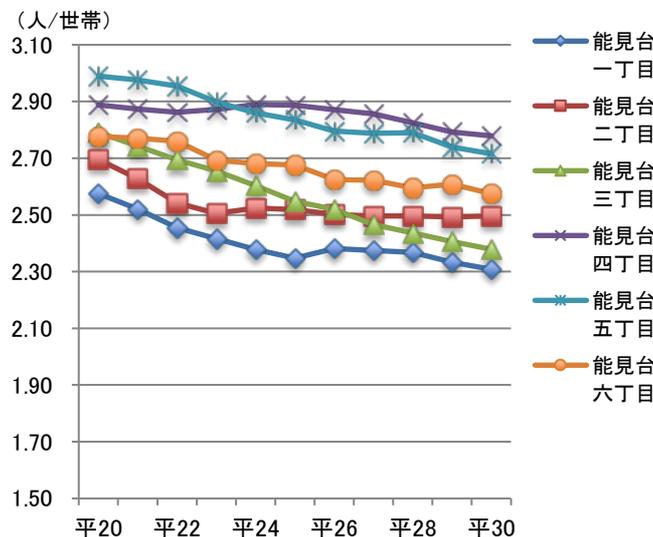
能見台四丁目は平成21年まで人口、世帯数の増加が続いていましたが、以降安定しています。

能見台三丁目は、世帯数は安定しているものの、人口は緩やかな減少が続いています。世帯規模が大きく世帯構成員の転出により人口が減少していると考えられます。

能見台五丁目は人口、世帯数が緩やかに増加しています。

能見台一・二丁目と六丁目は、人口、世帯数が概ね安定した状態が続いています。(図2,3参照)

図4 町丁別平均世帯規模の動向



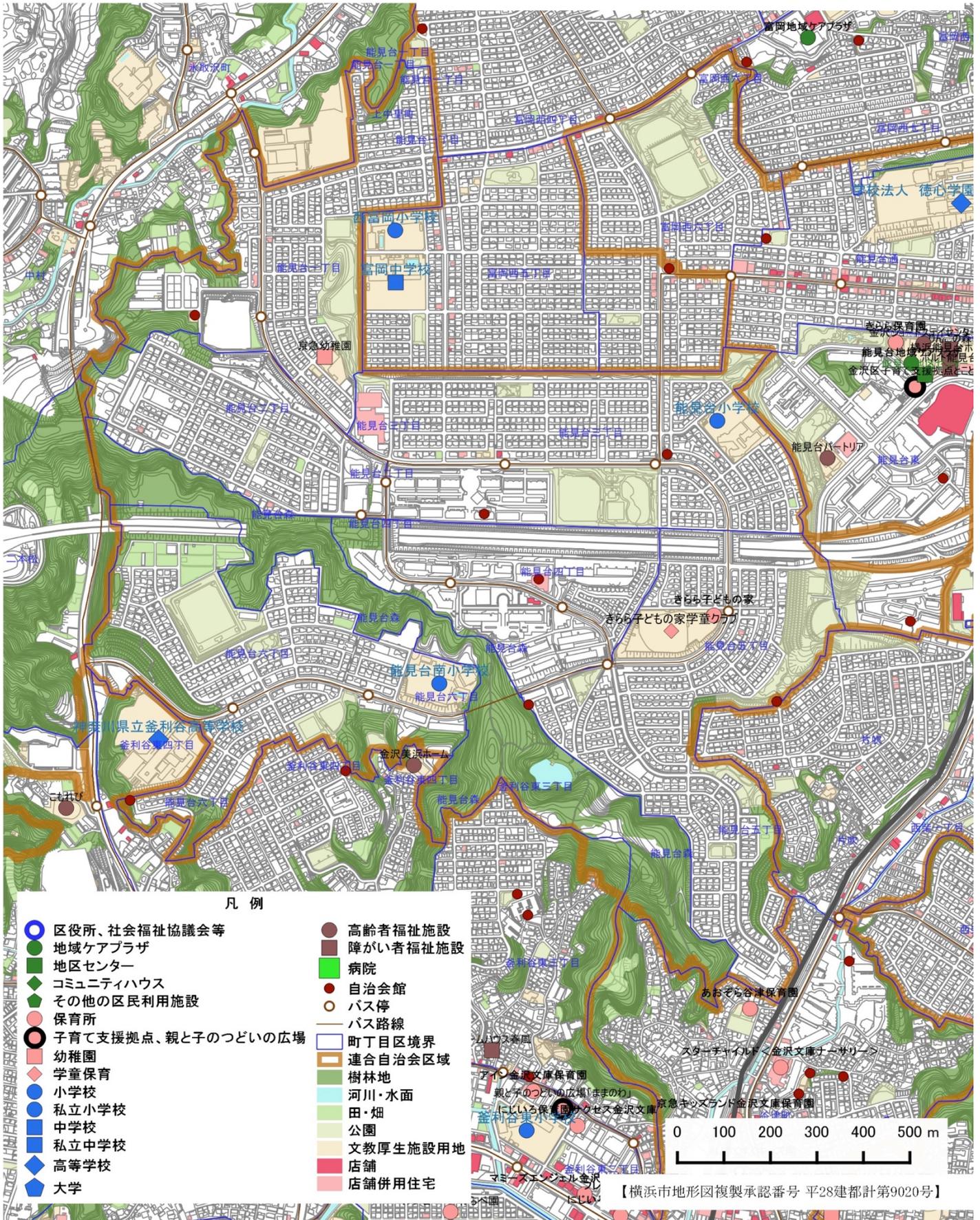
平均世帯規模は、いずれも緩やかな縮小傾向が続いています。(図4参照)

(能見台地区には、市営谷津坂住宅(320戸)が含まれています。)

3. 地域の施設等の分布状況

図5 地域の施設等の分布状況

*土地利用現況、建物用途現況は、横浜市都市計画基礎調査結果による。
 *施設の位置は、金沢区オープンデータ等による。



4. 年齢別人口と人口移動

図6 年齢5歳別の人口の変化

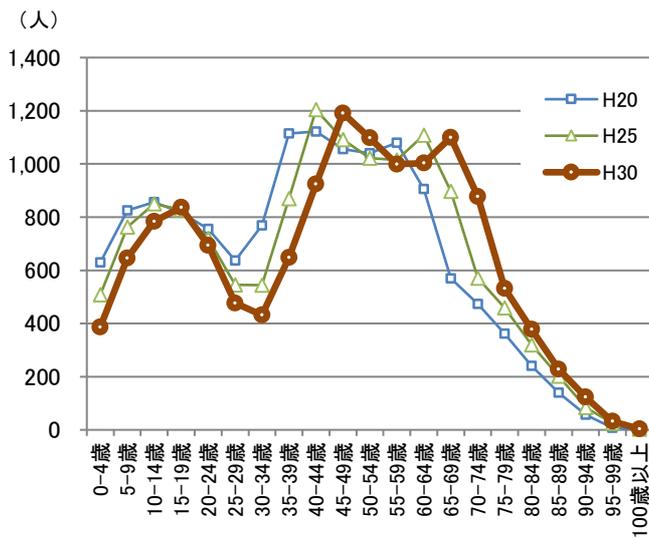


図8 年齢別人口の変化

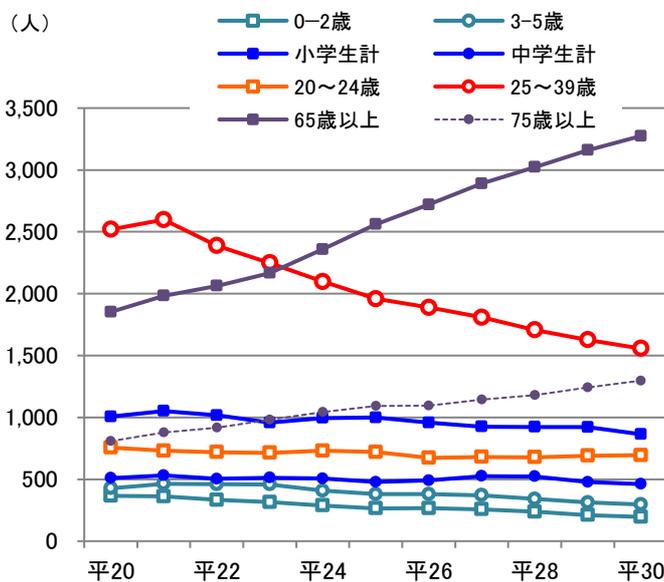
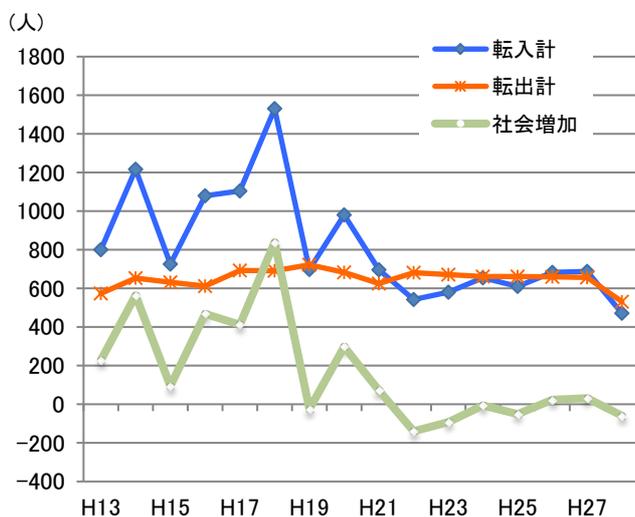
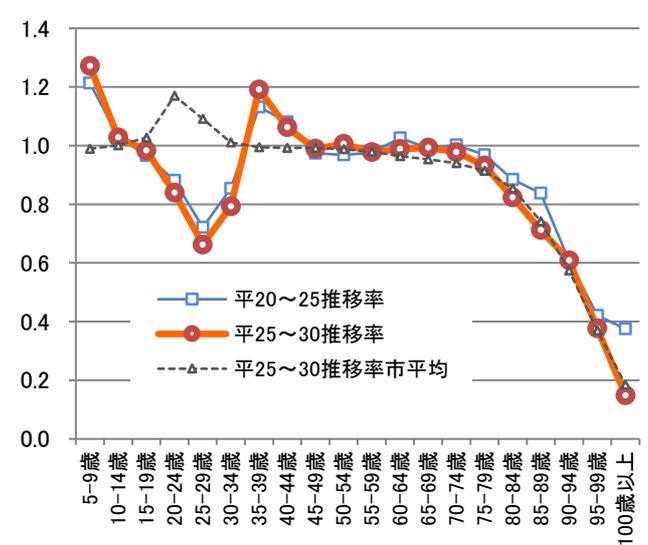


図9 人口移動の動向



*年齢別人口は「町丁別年齢別男女別人口」による。各年9月末現在
*移動人口は平成13～28年の人口移動集計結果による

図7 年齢5歳別の人口の推移率



*推移率: 上記の場合は、年齢5歳階級人口の各階級の人口が、死亡、転出入によって5年後に1階級高齢の人口になる割合

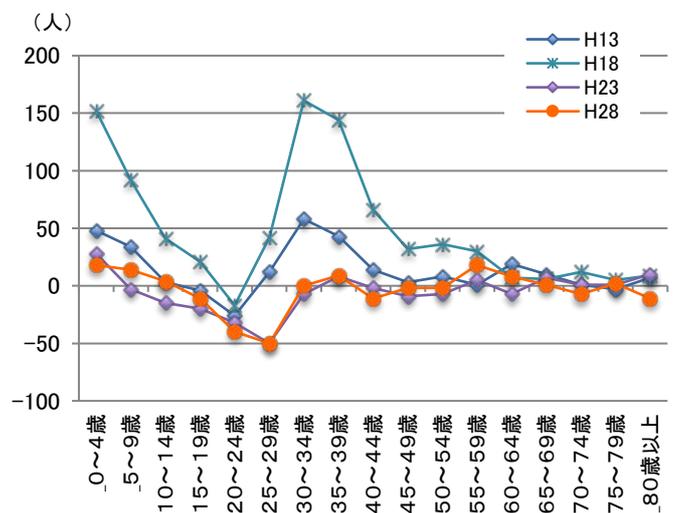
能見台地区では、平成14～20年にかけて転入増加があったことがわかります。(図2, 3, 7, 9参照)

平成25～30年の期間は大きな人口増加もなく安定していますが、20～30歳代前半に転出による減少の傾向がみられます。(図7, 9参照)

人口移動状況を見ると、人口は転入と転出のバランスによって増減が左右されていることがわかります。(図9参照)

年齢別の社会移動は、平成13年、平成18年に見られた30歳代と9歳以下の転入増加傾向が弱まってきていることを示しています。また、近年、20歳代後半の社会減少が続いていることがわかります。(図10参照)

図10 年齢5歳別社会移動人口の動向



5. 世帯の状況と居住歴

*各年「国勢調査」結果による

図 11 6歳未満の子どもがいる世帯の動向

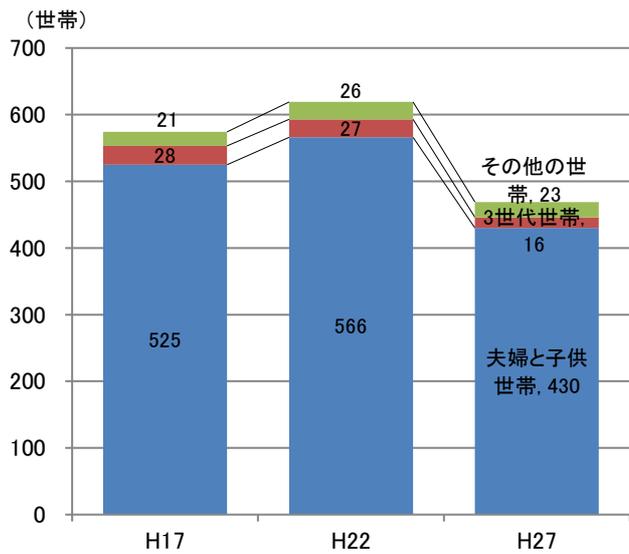


図 12 65歳以上の高齢者がいる世帯の動向

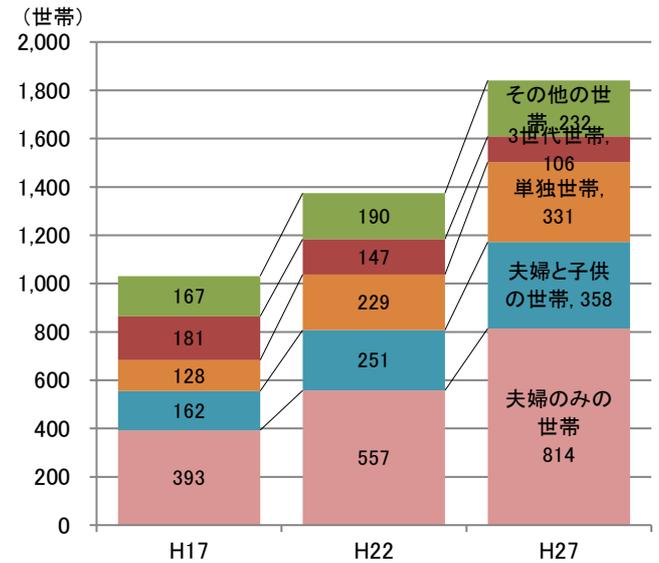


図 13 住宅の所有関係別の世帯の動向

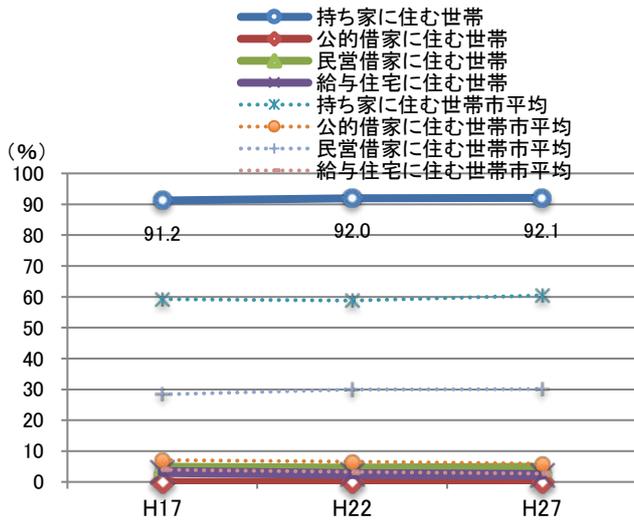


図 14 住宅の建て方別の世帯の割合

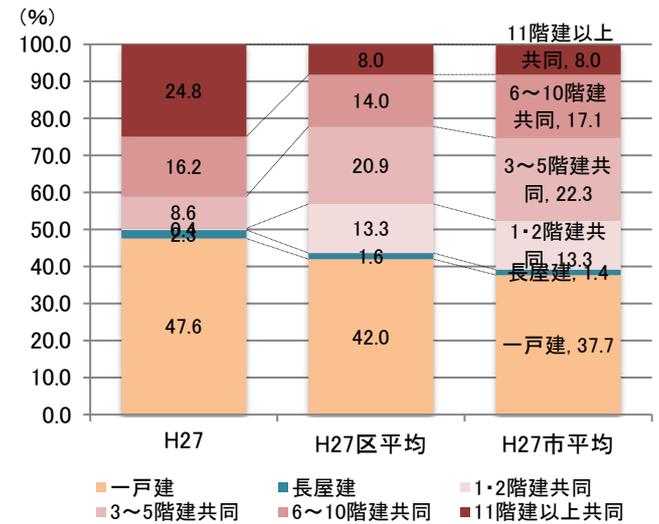


図 15 規模別世帯の動向

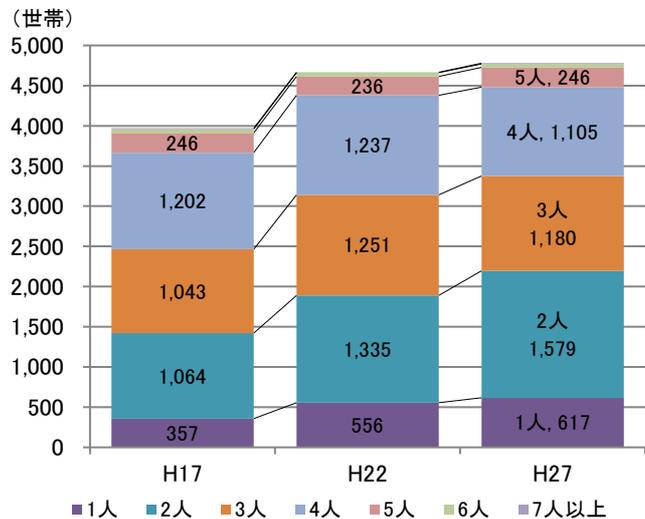
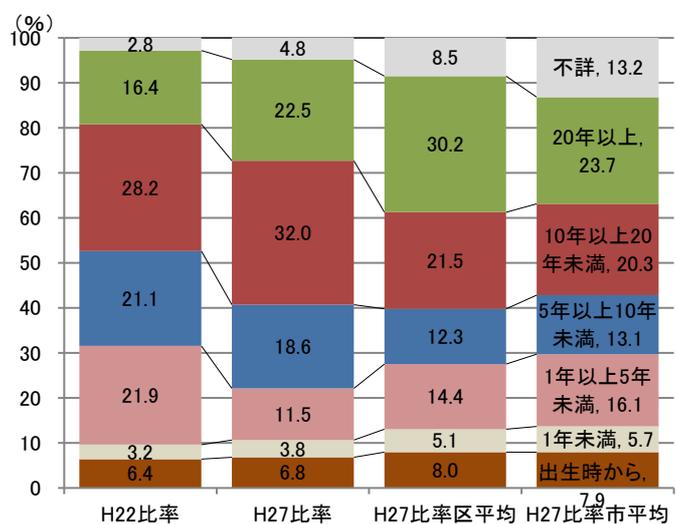


図 16 居住歴別人口の割合



6. 65歳以上の高齢者のいる世帯、要介護認定者数

表2 高齢者のいる世帯の状況 (H31)

	高齢独居世帯数(男性高齢者)	高齢独居世帯数(女性高齢者)	高齢者のみ世帯数(単身世帯除く)	高齢者を含む世帯数(高齢者と高齢者以外で構成)
世帯数(世帯)	148	510	939	1,730
対世帯総数比率(%)	2.8 (区平均 4.8)	9.8 (区平均 11.7)	18.1 (区平均 14.3)	33.3 (区平均 26.9)
対高齢者のいる世帯数比率(%)	8.6 (区平均 17.9)	29.5 (区平均 43.4)	54.3 (区平均 53.2)	100.0

*横浜市資料による。2019年3月時点。世帯数は住民基本台帳による

*高齢独居世帯は65歳以上の方1名で構成される世帯

*高齢者のみ世帯は、65歳以上の方のみで構成される2名以上の世帯

*高齢者を含む世帯は、65歳以上の方と、65歳未満の方で構成される2名以上の世帯

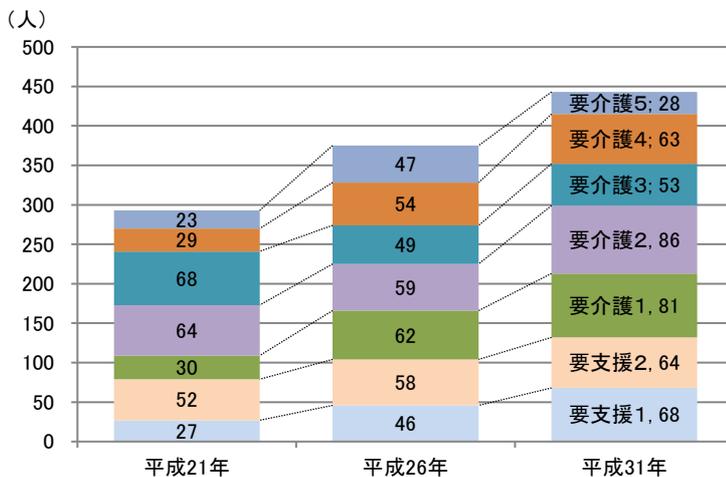
表3 要介護認定者数 (H31)

	計	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
要介護認定者数(人)	443	68	64	81	86	53	63	28
人口比(%)	3.32	0.51	0.48	0.61	0.65	0.40	0.47	0.21
人口比区平均(%)	4.70	0.73	0.64	0.74	1.00	0.61	0.58	0.40
要介護認定者総数比(%)	100.00	15.35	14.45	18.28	19.41	11.96	14.22	6.32
区平均(%)	100.00	15.46	13.69	15.82	21.31	12.93	12.34	8.45

*要介護認定者数は、金沢区資料による。平成31年3月末時点

*地区別人口は、「町丁別の人口(住民基本台帳による)」により集計。平成31年3月末時点

図17 要介護認定者数の動向



*各年、要介護度別認定者数は金沢区資料による。

7. 地区の特徴と動向

能見台地区は、京急線の西側に計画的に開発された住宅地です。区域の一部は京急線に接しており、区域の中央を横浜横須賀道路金沢支線が東西に通っています。

居住世帯の48%は戸建て住宅に住んでいます。共同住宅の居住世帯は約50%です。11階以上の共同住宅に住む世帯が約25%、6～10階の共同住宅が約16%です。(図14参照)

持家に住む世帯が約92%を占めており地区の特徴になっています。(図13参照)

居住期間が長い人の割合が多くなっています。平成27年時点で、居住期間が「10年～20年未満」(約32%)と「20年以上」(約23%)の比率を合計すると約55%になります。(図16参照)

6歳未満の子どもがいる世帯は、増加を続けていましたが、平成22～27年の期間では減少しました。6歳未満の子どもがいる世帯は平成27年で約470世帯で、世帯総数(約4,780世帯)の9.8%を占めています(区平均は約8%)。このうち約92%が核家族です。(図11参照)

65歳以上の高齢者がいる世帯は増加が続いています。高齢者の単独世帯、高齢者の夫婦のみの世帯の増加が目立ちます。

平成27年で高齢者のいる世帯数は約1,840世帯で、世帯総数の約39%です(区平均は約32%)。このうち、高齢者の夫婦のみの世帯は約44%、高齢者の単独世帯は約18%です。(図12参照)

平成29年時点の高齢者のいる世帯の比率は約40%で区の平均(約43%)を下回っています。(表2参照)

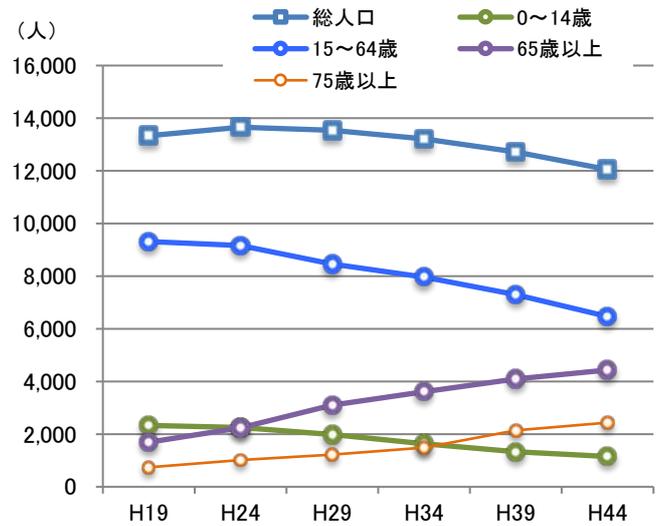
また、要介護認定者の人口比率は約3.0%で、区の平均(約4.7%)を下回っています。(図17参照)

20歳代～30歳代前半人口が転出により減少する傾向が続いており、平成28年の社会移動をみても20歳代後半を中心に20歳代の転出超過の傾向が見られます。

(図7,10参照)

能見台地区は世帯規模が未だ比較的大きく、5歳～20歳前半の人口が多いため、今後も世帯分離による20歳代、30歳代の転出による人口減少が続くと考えられます。

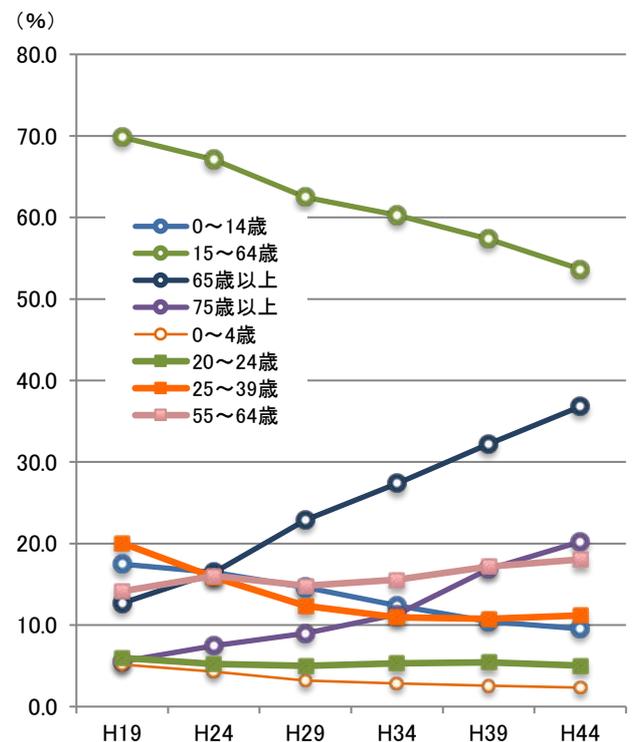
図18 人口の動向と推計



*平成24～29年の年齢5歳別人口の変化の傾向が続くものとして推計した値です。

*平成34年以降が推計値です。

図19 人口の動向と推計 年齢別比率



今後65歳以上になる人口が多く、地区全体として人口減少と同時に高齢者の増加、特に75歳以上の人口の増加が進むと考えられます。(図6,18,19参照)